

**中学生の学びの場・居場所づくり ～若者支援事業「サードプレイス Jr.」～**

今年度、中学生が自ら公民館事業の企画や準備、運営を行い、公民館主事が中学生の思いに寄り添った伴走型の支援を行う「サードプレイス Jr.」を霞城公民館で実施しました。この事業は、中学生が地域についての学びを深めるとともに、自己有用感を高め、地域に対する愛着を持つこと、また、地域における学びの循環をつくることを目的としています。

～霞城公民館サードプレイス Jr. の取組～**6月17日（月） 中学生とのつながりづくり「公民館開放」**

40名の中学生が来館しました！（社教ニュースときたまご第2号に掲載）

7月16日（土）～10月25日（金）文化祭企画の準備・打合せ

第二中学校、第三中学校、高楯中学校に通う6名の中学生が参加しスタートしました。準備が進むにつれて、メンバーが少しずつ増えていきました。中学生の思いを引き出すファシリテーターは、東北芸術工科大学コミュニティデザイン学科の4年生の伊豆田花さんが引き受けてくれました。

8月7日（水） 少年少女きらきら教室「水彩画教室」ボランティア体験

初めてのボランティア体験。思った以上に緊張したそうです。

～ボランティア体験～

9/21、9/28、10/12 ダンス教室

12/7 せっけんづくり教室

2/8 霞城けん玉道場

3/8 かんたん和菓子づくり

10月26日（土）、27日（日） 霞城公民館文化祭「ペタペタスタンプラリー」運営

未就学児や小学生が館内を巡るスタンプラリーやあてくじ、千本引き、缶バッジづくり、水ヨーヨー釣りを運営しました。延べ23名の名の中学生の他に5名の高校生と6名の大学生がボランティアとして参加しました。どのコーナーも大盛況で、霞城公民館が子どもたちの笑顔と笑い声で溢れていました。

12月28日（土） 今年度のふりかえり**1月25日（土）、3月8日（土） 来年度に向けて**

参加した中学生から（12/28 ふりかえりより）

○自分の目標に関して

- 他の中学校の生徒や小学生、高校生、大学生と仲よくなることができました。
- たくさんの出会いがあった。 • 「ありがとう」と言ってもらった。
- ハッピーな気持ちになった。 • コミュニケーション能力が高まった。
- 「ボランティア」で一致団結できた。協力できた。

○私にとっての霞城公民館

- これまで公民館に行ったことがなかった。
- 公民館はおじいちゃんやおばあちゃん、いろいろな人と関わることができる場所。
- 交流ができる場所。 • 地域とのかかわりができる場所。
- 中学生も来ていい場所だということがわかった。身近な場所になった。いろいろなチャレンジができる。
- 楽しい、ワクワク、ポジティブ、落ち着く、幸せになれる、あったかい、思い出をつくることなど

霞城公民館が中学生にとっての「地域における学びの場」となりました。

そして、サードプレイス Jr.での中学生の学びはさらに広がりを見せます。

サードプレイス村「チルドレンワールド」

サードプレイス Jr.でファシリテーターとして活躍した伊豆田さんが「中学生のやりたいことを大学生や地域の大人がサポートし、実現・実践できる場を創ろう」というテーマで卒業研究に取り組みました。伊豆田さんの思いに賛同したのは、サードプレイス Jr.に参加した5名の中学生とその仲間たちです。今年1月、中学生が主体となって活動する「サードプレイス村」を立ち上げました。

メンバーの中学生たちのやりたいことは、「文化祭を開催し、小学生と交流すること」でした。メンバーは休日等集まって話し合いを重ね、小学生向けの文化祭「チルドレンワールド」を開催することになりました。小学生が射的と宝さがしを楽しみながらポイントを集め、景品と交換できるという内容です。参加者の安全見守りなどのサポートを地域団体である「たかせ元気会」にお願いすることにしました。

3月1日、15名の中学生と2人の大学生、4名の地域住民、そして41名の子どもたちが会場となる高瀬コミュニティセンターに集まりました。中学生が考えた魅力的な企画、会場を盛り上げる元気な呼びかけ、小学生目線の温かい声かけなどにより、子どもたちは大喜び！地域の中で中学生と小学生、中学生と大人がつながる魅力的なイベントになりました。

参加者の笑顔を見て、中学生の学びは地域の活性化、地域づくりにつながる大きな魅力と可能性を秘めていることを強く感じました。